

チリ政治情勢報告(令和6年(2024年)8月)

令和6年9月

1 概要

- (外交)1日、ボリッチ大統領、ペトロ・コロンビア大統領と電話での首脳会談実施。
- (外交)3日、ガスマリ駐ベネズエラ・チリ大使らチリ人外交団が、チリに帰国。
- (外交)4-6日、ルーラ伯大統領が訪チリし、ボリッチと大統領と首脳会談実施。
- (スポーツ)4日、パリ五輪、射撃・女子スキートでクロベット選手が金メダルを獲得。
- (外交)25-30日、バン・クラベレン外相がアジア歴訪し、ベトナムとインドを訪問。
- (対日)26日、日本の参議院議員団が訪チリしデ・ラ・フエンテ外務大臣代行と会合。
- (内政)28日、10月26-27日に実施の地方選挙の選挙キャンペーンが開始。

2 内政

(1) パリ・オリンピック2024

8月4日、パリのシャートル・クレール決勝会場で、射撃、女子スキート個人決勝が行われ、フランスカ・クロベット選手(サンティアゴ市出身、34才)が金メダルを獲得した。チリの金メダル獲得は、2004年のアテネ大会でのテニス競技以来20年振り。また、6日には、レスリング、男子グレコローマン130キロ級の決勝が行われ、ヤスマニ・アコスタ選手(キューバ生まれ、36才)が銀メダルを獲得した。12日、フランスから帰国した両選手は、モネダ宮殿を訪れ、ボリッチ大統領を表敬した。

(2) 銅鉱山でのストライキ

8月13日午前8時から、世界最大の銅生産を誇るエスコンディータ銅鉱山(アントファガスタ州)において、労働者が待遇改善等を求めてストライキを開始した。ストライキには2,397人の操業及び維持管理に従事する労働者が参加した。銅価格上昇などの影響が懸念されたが、6日間の交渉の後、労使間で賃上げの条件に関する合意に達し、ストライキは終了した。

(3) 首都圏治安情勢

8月20日から25日にかけて、サンティアゴ首都圏州の各地で相次いで殺人事件が発生し、死者は16人に及んだ。特に、サンティアゴ市南部のプエンテ・アルト区及びラ・ピンタナ区においては複数の事件が発生した。銃を用いた犯行も多く、ラ・ピンタナ区的事件では、被害者に30発の銃弾が撃ち込まれていた。被害者の中には、ハイチ人やペルー人といった外国籍の者、また、15才と16才の青年も含まれていた。

(4)地方選挙

8月28日、10月26－27日に実施される地方選挙(州知事、州議会議員、市区長、市議会議員)の選挙キャンペーンが開始された。早速候補者や与野党各会派は街頭イベントを開催するなど2カ月におよび選挙戦をスタートさせた。今次地方選挙は義務投票となり、また、選挙権を有する外国人移民の増加なども考慮し、投票期間は2日間となる。

(5)ボリッチ政権に関する世論調査(「Cadem」(8月第2週))

ア ボリッチ大統領の施政を評価するか。(括弧内は7月第2週の結果)

評価する	: 37%(35%)
評価しない	: 55%(60%)
どちらでもない	: 4%(3%)
わからない、無回答	: 4%(2%)

イ チリの次期大統領候補として誰が望ましいか。(括弧内は7月第2週の結果)

マテイ・プロビデンシア区長	: 21%(19%)
カスト氏	: 11%(11%)
バチェレ元大統領	: 11%(9%)
カイセル下院議員	: 4%
バジェホ内閣官房長官	: 2%(3%)

ウ 経済・社会の現状

(ア)チリは良い方向に向かっているか。

向かっている	: 30%(30%)
向かっていない	: 63%(64%)

(イ)チリ経済は現在発展しているか。

発展している	: 27%(22%)
停滞もしくは後退している	: 72%(77%)

(6)南部治安情勢

7月31日、チリ上院は、非常事態宣言の延長を承認し、同宣言の9月2日までの期限延長が決定された。対象範囲は、これまで同様、アラウカニア州全体、そしてビオビオ州のアラウコ県及びビオビオ県である。

3 外交

(1)中南米

ア 8月1日、ボリッチ大統領は、ペトロ・コロンビア大統領と、7月28日に実施された大統領選挙以降、ベネズエラが直面している危機に取り組むために電話会談を実施した。

同会談について、ボリッチ大統領は、自身のXのアカウントを通じて、「我々は、ベネズエラ国民の主権が完全に尊重されること及び可及的速やかに公正な確認を通じた選挙結果の公表が行われることが必要不可欠であると合意した」と述べた。

イ 8月3日、ベネズエラ政府による追放命令により、チリへの帰国を余儀なくされた、ガスマリ駐ベネズエラ・チリ大使を含むチリ人外交団が、サンティアゴ空港に到着し、バン・クラベレン外相及びトア内務・治安大臣によって迎えられた。同日、ガスマリ駐ベネズエラ・チリ大使は、モネダ宮殿を訪れ、バン・クラベレン外相同席の下、ボリッチ大統領と会合を実施した。

ウ 8月4日から6日にかけて、ルーラ伯大統領が国賓訪問としてチリを訪問した。8月5日、ボリッチ大統領はルーラ伯大統領との首脳会談を実施した後、プレス発表において二国間の良好な関係を強調した。今次国賓訪問の枠組みにおいて、治安、保健、貿易、文化、科学及び観光等における両国間の協力に関する19の合意が署名された。

また、今次訪問の機会に、在チリ・ブラジル大使館とチリ製造振興協会(SOFOFA)が共催するチリ・ブラジル企業フォーラムが開催され、両大統領も出席した。同フォーラムにおいて、ボリッチ大統領は、チリの国家リチウム戦略プロジェクトや南米大陸横断回廊など他国との共同プロジェクトの重要性を強調した。

エ 8月8日、バン・クラベレン外相は、チリ訪問中のバルセナ・メキシコ外相と会談を実施した。両外相は、二国間関係の主たる分野について対話し、本年7月に締結25年を迎えた両国間のFTAの総括を実施するとともに、同FTAの改訂について対話した。また、地方統合において太平洋同盟が担う役割やベネズエラ情勢などについても対話した。

オ 8月9日、バン・クラベレン外相は、モンディノ・アルゼンチン外相と外相会談を実施した。両外相は、主に11月に40周年を迎える和平・友好条約署名の記念式典を中心とした二国間関係の最も重要な分野に取り組むため少人数会合及び拡大会合を実施した。

カ 8月16日、バン・クラベレン外相は、公式に2期目の大統領職に就任したアビナデル・ドミニカ共和国大統領の大統領就任式に出席した。同式典には、ガルシア上院議長が長を務めるチリ側代表団も参加した。

(2)対中関係

8月7日、バン・クラベレン外相は、劉建超・中国共産党中央委員会対外連絡部長の表敬を受けた。両者は、2023年に成功裏に実施されたボリッチ大統領の訪中に主に焦点を充てつつ、二国間関係の重要な分野、及び同訪中において署名された合意につい

て対話した。両国は、2016年以降、総合的な戦略的同盟を維持し、ハイレベルの訪問が二国間関係を深化し続けるための重要な役割を担っている点において一致した。

(3)アジア

ア 8月25日～27日、バン・クラベレン外相は、ベトナムを訪問した。インド訪問も含む今次外遊は、チリ外交政策の優先事項の一つである、アジア太平洋諸国との関係強化の戦略の一環である。

8月25日に実施されたソン越外相との外相会談においては、二国間アジェンダのレビューを実施するとともに、本年11月に予定されている直近15年間で初となるラム越国家主席のチリ訪問に向けた準備についても対話した。このほか、バン・クラベレン外相は、ソン越副首相、ホアイ共産党外交委員会委員長、ラン商工会議所会頭など同国要人らと会合を重ねた。

ベトナムは、チリの世界で20番目、ASEAN諸国の中で1番の貿易パートナーであり、2011年に自由貿易協定に署名している。

イ 8月28日～30日、バン・クラベレン外相は、インドを訪問した。28日、同外相は、ジャイシャンカル印外相とともに、チリ・インド・ハイレベル共同委員会を主催した。同委員会において、両国代表団は、二国間分野における、貿易関係、農業、防衛、デジタル公共インフラ、保健、科学技術、教育、文化、南極及び協力等の分野の深化について対話がなされた。

また、29日、同外相は、ムンバイ市において、チリ投資促進庁(ProChile)が主催した、Chile Summit India2024に出席したほか、情報技術サービス及び貿易の世界的コンサルタント企業であるTata Consultancy Services(TCS)社を訪問し、同社社長と会合を行った。

(4)対日関係

8月26日、デ・ラ・フエンテ外務大臣代行は、チリを訪問した日本の参議院議員団(平山佐知子議員(団長)、生稲晃子議員及び堀井巖参議院議員)と二国間関係の強化を目的とした会合を実施した。会合では、本年6月に東京において実施された第10回日・チリ政策対話の実施といった両国間の充実したアジェンダについて対話したほか、チリが既にアジアにおけるチリのイメージの促進に向けて精力的に取り組んでいる2025年大阪万博についても対話した。

今次会合の前に、同代行は、吉川在大阪チリ名誉領事と会合を実施し、同名誉領事に対し、チリと日本との友好関係の強化に対する支持に謝意を表明するとともに、様々な分野における取組に関し対話した。

(了)